

# 財務概況

## 業績の概要

(億円)

	2017.3	2018.3	2019.3	2020.3	2019.3/2020.3 増減比
売上収益	2,448	2,618	2,886	2,924	+1.3%
営業利益	723	607	620	775	+25.0%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	558	503	515	597	+15.8%

### 売上収益の状況

売上収益は、前連結会計年度比38億円(1.3%)増加の2,924億円となりました。

- 抗悪性腫瘍剤「オブジーボ点滴静注」は、腎細胞がん等での使用が拡大した一方で、一昨年11月の薬価見直しの影響や競合他社製品との競争激化により、前連結会計年度比33億円(3.6%)減少の873億円となりました。
- その他の主要新製品では、2型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は261億円(前連結会計年度比3.1%減)、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は198億円(同13.8%増)、糖尿病治療剤「フォンサー錠」は181億円(同24.7%増)、抗悪性腫瘍剤投与に伴う悪心・嘔吐治療剤「イメンドカプセル」、「プロイメンド点滴静注用」は合わせて107億円(同1.0%増)、アルツハイマー型認知症治療剤「リバスタッチパッチ」は85億円(同4.2%減)、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」は71億円(同23.6%増)、多発性骨髄腫治療剤「カイプロリス点滴静注用」は60億円(同21.9%増)となりました。
- 長期収載品は、後発品使用促進策の影響を受け、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」は83億円(前連結会計年度比19.5%減)、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は47億円(同35.4%減)となりました。
- ロイヤルティ・その他は、 Bristol-Myers Squibb社およびメルク社からのロイヤルティ収入などが増加したことにより、前連結会計年度比71億円(8.9%)増加の868億円となりました。

### 損益の状況

営業利益は、前連結会計年度比155億円(25.0%)増加の775億円となりました。

- 売上原価は、前連結会計年度に発生したオブジーボ原薬の安定供給を受けるための一時的な負担金が当連結会計年度にはなかったことなどにより、前連結会計年度比48億円(5.7%)減少の791億円となりました。
- 研究開発費は、臨床試験計画の見直しや一部の臨床試験の中止等により治験費用が減少したことに加え、創薬に係るライセンス料が減少したことなどにより、前連結会計年度比35億円(5.0%)減少の665億円となりました。
- 販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、当連結会計年度に見込んでいた新製品の上市時期の遅れ、新型コロナウイルス感染症の影響による学術講演会の中止・延期、MRの医療機関訪問自粛から営業活動経費が減少したことなどにより、前連結会計年度比24億円(3.4%)減少の677億円となりました。

(億円)

	2019.3	2020.3	前期比
売上原価	838	791	△5.7%
研究開発費	700	665	△5.0%
販売費及び一般管理費	700	677	△3.4%

親会社の所有者に帰属する当期利益は、税引前当期利益の増加に伴い、前連結会計年度比82億円(15.8%)増加の597億円となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、投資活動によるキャッシュ・フローが102億円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが547億円の支出となったものの、営業活動によるキャッシュ・フローが742億円の収入となったことにより、前連結会計年度末の600億円に比べて90億円(15.0%)増の690億円となりました。

### 〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において営業活動によるキャッシュ・フローは、742億円の収入(前連結会計年度は668億円の収入)となりました。主な内訳としては、税引前当期利益797億円がありました。

### 〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において投資活動によるキャッシュ・フローは、102億円の支出(前連結会計年度は498億円の支出)となりました。主な内訳としては、投資の売却及び償還による収入314億円があった一方で、定期預金の預入による支出(純額)200億円、無形資産の取得による支出150億円、有形固定資産の取得による支出75億円などがありました。

### 〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉

当連結会計年度において財務活動によるキャッシュ・フローは、547億円の支出(前連結会計年度は223億円の支出)となりました。主な内訳としては、自己株式の取得による支出296億円や配当金の支払額228億円などがありました。

(億円)

	2019.3	2020.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	668	742
投資活動によるキャッシュ・フロー	△498	△102
財務活動によるキャッシュ・フロー	△223	△547
現金及び現金同等物の期末残高	600	690

## 設備投資

当連結会計年度の設備投資につきましては、生産設備の増強・維持投資45億円、営業設備等の増強・維持投資32億円、研究設備の増強・維持投資19億円など、合計95億円の投資を実施しました。

なお、当連結会計年度の設備投資の主な内容は、山口県で稼働した工場設備および製造機械設備であります。

## 今後の見通し

次期につきましては、2020年4月の薬価改定の影響や競合品との市場シェア獲得競争の激化など、厳しい事業環境が続くものと予想されます。「オブジーボ点滴静注」は、腎細胞がん、頭頸部がん、胃がん領域において競合品の参入や非小細胞肺癌二次治療領域での新規使用患者数の減少を見込む一方で、食道がん領域における使用拡大や非小細胞肺癌一次治療への参入を見込んでおり、当連結会計年度比27億円(3.1%)増加の900億円を見込んでいます。その他の主要新製品では、「フォシーガ錠」、「オレンシア皮下注」、「パーサビブ静注透析用」、「カイクロリス点滴静注用」などの売上拡大に加え、複数の新製品の発売を見込んでいます。また、ロイヤルティその他の収益は、プリストル・マイヤーズ スクイブ社およびメルク社からのロイヤルティ収入が引き続き伸長し、当連結会計年度比62億円(7.1%)増加の930億円を見込んでいます。以上のことにより、売上収益は当連結会計年度比106億円(3.6%)増加の3,030億円を予想しています。

売上原価は、2020年3月より山口工場にて製造が開始されたことなどにより、当連結会計年度比24億円(3.1%)増加の815億円の見込みです。

研究開発費は、新型コロナウイルス感染症の影響による新規および実施中の臨床試験の被験者登録の延期・中断があるものの、持続的成長を実現すべく積極的な投資を行うため、当連結会計年度比25億円(3.8%)増加の690億円の見込みです。販売費及び一般管理費(研究開発費を除く)は、新型コロナウイルス感染症の影響による学術講演会の中止・延期、MRの医療機関訪問自粛に伴い営業活動経費が減少する一方、複数の新発売見込品や効能追加に伴う一時的な営業活動経費の増加などにより、当連結会計年度比23億円(3.4%)増加の700億円の見込みです。

以上のことにより、営業利益は当連結会計年度比25億円(3.2%)増加の800億円、親会社の所有者に帰属する当期利益は当連結会計年度比13億円(2.2%)増加の610億円と予想しています。

(億円)

	2021.3(見込)	当期比
売上収益	3,030	+3.6%
営業利益	800	+3.2%
当期利益(親会社の所有者帰属分)	610	+2.2%

(注)新型コロナウイルス感染症の収束時期を現時点で正確に見通すことが困難なため、上記の業績予想には、2020年6月末まで医療機関への訪問活動等の自粛が続いた場合の影響を織り込んでいます。第2四半期以降も活動制限が続いた場合、活動自粛および受診抑制等により売上収益に若干のマイナス影響が見込まれるものの、同時に事業活動の低下による経費支出抑制も生じるため、営業利益に与える影響は軽微と見込んでいます。今後、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかに開示します。